

災害事例

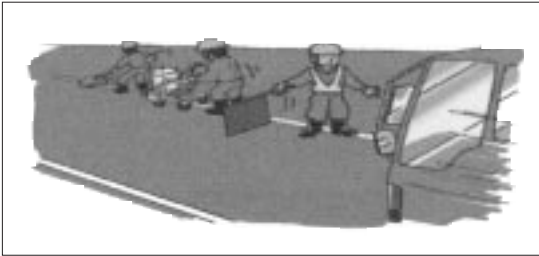
道路の中央線の塗替え作業中、 トラックに激突され被災した

【災害の概要】

工事の種類：道路建設工事

災害の種類：交通事故（道路）

被災者：3人（死傷）



【工事概要】

この災害は、道路（片側一車線）の中央線塗替え作業中、塗替え作業区間に8トントラックが進入し、3名の作業者がトラックに激突され被災したものである。

災害発生当日は、元請けの現場代理人1名、下請け作業員5名（塗替え作業及び交通誘導員）の計6名で作業を行っていた。

【災害発生状況】

作業は手押し式の溶融ペイントハンドマーカ（塗替え用機械）を用い、作業員Aが操作し、後方確認及び冷却のための水撒きをBが行い、塗替え前の旧ラインの清掃作業をCが担当していた。元請けの現場代理人Dは歩道上で検測作業を行い、他の作業員のE、Fは、通行車両の誘導を行っていた。

塗替え作業の途中で、溶融ペイントハンドマーカの塗料が少なくなり、塗料を補充するため、一旦作業員全員が歩道にもどり、塗料の補充を行った。

その後、車両誘導担当のEが、西方向から進行してくる車両を車道に出て誘導を開始した。

次いで作業員A、B、Cが車道に戻り、塗替え作業を再開した。

Fは東方向から向かってくる車両の誘導を行うことになっていたが、誘導する位置に行く途中、すでに、東方向からトラックが進入してきたため、当該トラックを通した。

トラックは、そのまま作業区間に進入したが、突然センターラインを越え、塗替え作業中の作業員に激突し、A、B、Cの3名が被災したものである。

【災害発生原因】

トラック運転手に対する安全運転指示、運転管理等の問題はあるが、作業現場の安全管理について、車両を通行させながら塗替え作業を行ったこと。

「片側交互通行」「防護車の配置」等が道路使用許可条件であったにもかかわらず、災害当日、上・下車線とも車両を通行させていたことに加え、防護車の配置も行っていなかった。

当該塗替え作業の施工方法等について、元請けの現場代理人は下請け作業員に対して安全な作業を行うための具体的な指示を行っていなかったこと。

当該塗替え作業での作業手順を定めておらず、また、作業員への安全教育も実施していなかったこと。

【再発防止対策】

道路上で作業を行う場合は、道路使用許可条件を含む次の措置を講じて工事を施工すること。

作業には必ず防護用として作業車を配置する。

作業現場の両端には交通整理員を配置して交通整理にあたらせ、片側交互通行とする。

作業現場手前の道路上には、運転者が視認できるように、作業の予告案内板を設置する。

元請現場代理人は、全ての下請けを含めた関係作業員に対して、作業前打ち合わせを行い安全な作業を行うための施工方法等について具体的に指示し、周知徹底する。

工事開始の前に、安全な作業を行うための作業手順を定め、作業員に安全衛生教育を実施することにより、周知徹底する。